

— 1993年7月12日午後10時17分 —

北海道南西沖地震が発生しました。日本海や深い森など美しい自然に囲まれた檜山管内はその自然が見せるもう一方の顔によって一瞬のうちに多くのものを奪われてしまいました。

# 自然の猛威!!



治山事業完成時



土砂を取り除き、<sup>どどめこう</sup>土留工などを配置して復旧を行いました。

10年後



山腹斜面に植生の回復が見られます。

山腹崩壊により大量の土砂が避難路ともなる道路をふさぎました。奥尻町ではこうした崩壊が40箇所以上生じました。

## 災害からの復興



(北檜山町<sup>ふとろ</sup>太櫓地区)

海岸段丘に地割れが生じ二次被害拡大のおそれがあった。現在は<sup>どどめこう</sup>土留工が施工され直下の集落は守られている。



(奥尻町字奥尻)

自衛隊官舎背後の山腹が崩壊した。現在は<sup>のりわく</sup>法枠工が施工され斜面は安定している。



(大成町太田地区)

長さ200mもの<sup>のりわくこう</sup>地割れが生じた。現在は法枠工が施工され、直下の集落や港を守っている。

南西沖地震によって檜山管内では約60箇所の山腹の崩壊や地割れが生じました。

その地震から10年がたちました。人々は力を合わせて災害の悲しみから立ち上がってきました。治山事業も早期復旧のため集中的に行われ、山と共に人々の生活を支えています。

